

安芸太田 広島市とのつながり

安芸太田と広島市は、冠山の斜面から湧き出る太田川で繋がっています。ここから、川は北東方向に流れ、その後急に曲がり、南の瀬戸内海方向へと向かって行きます。川は複数の支流へと分かれ、広島市周辺の広大な沖積三角州上に現れます。これらの支流の1つは、1945年8月6日に市が破壊されたことを記念したモニュメントの原爆ドームを横切っています。

太田川と、三段峡を通る柴木川を含む支流は、現在の広島県の地域を通して、物を輸送するのに長く使われてきました。江戸時代（1603年-1868年）には、加計地域（現在の安芸太田の東部）が中国地方のたたら（伝統的な溶錬炉）製鉄の中心地になりました。ここで溶かされた錬鉄（砂鉄から溶け出た原鉄）が、下流に出荷され、現在の広島市周辺で発展した製鉄産業の基礎になりました。たたら製鉄は、ここで数多く鍛造された針やヤスリ、鋸などの原料を提供しました。今日でも、日本で使用されている約90%の手縫い針が、広島市で製造されています。

たたら製鉄産業は、もはや稼働しておらず、高速道路が安芸太田と広島市間の主要な通路としての太田川の役割を引き継ぎました。しかし、太田は、現在でも両方の地域向けの水道水の原料となっており、夏や秋には多くの広島市民が涼しい風と色とりどり紅葉を楽しみに、安芸太田まで1時間かけてドライブしています。